

(1) 証券の保有状況（問2）

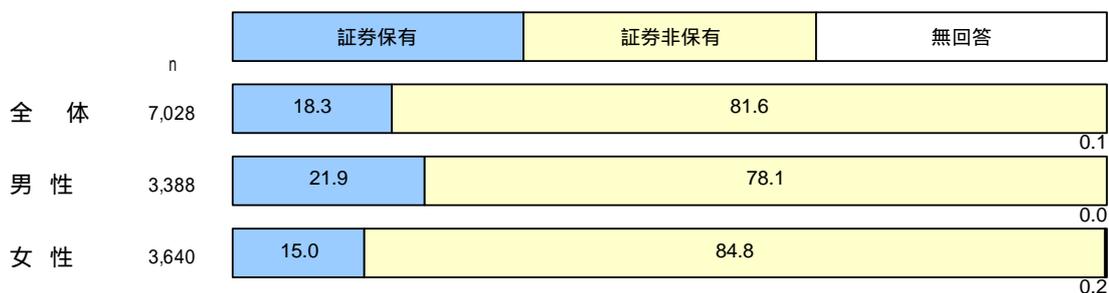
「国内で発行された証券（株式、投資信託、公社債）」あるいは「外国で発行された証券（株式、投資信託、公社債）」を現在（平成18年6月の調査時点）保有している“証券保有率”は18.3%、どちらも保有していない“証券非保有率”は81.6%である（無回答が0.1%）。

この保有率18.3%を平成12年国勢調査における20歳以上人数（100,736,618人）に乗じると、証券を現在保有している20歳以上の人は約1,843万人と推計される。

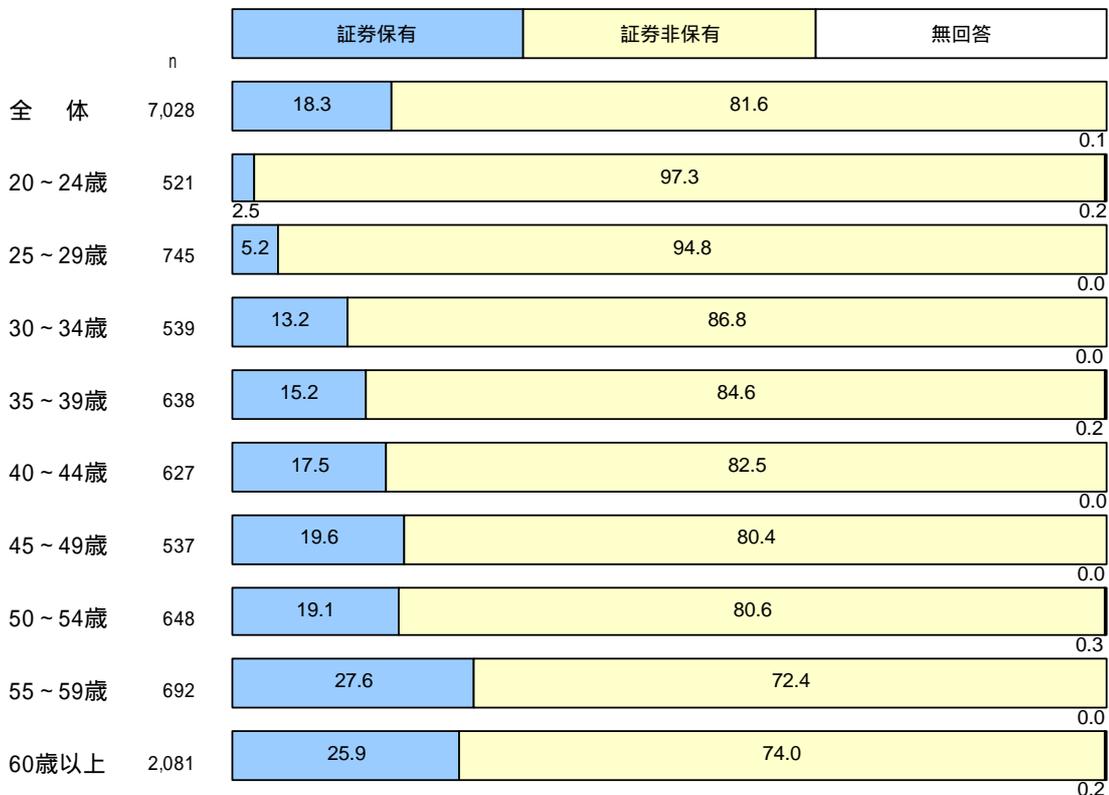
性別で見ると、男性の証券保有率は21.9%であるのに対し、女性の保有率は15.0%であり、男性が女性よりも高い。

年代別では、年代が上がるほど保有率が高くなっているが、55歳～59歳の保有率が27.6%と最も高い。

図表 3-1 証券の保有状況（問2）/性別（F1）

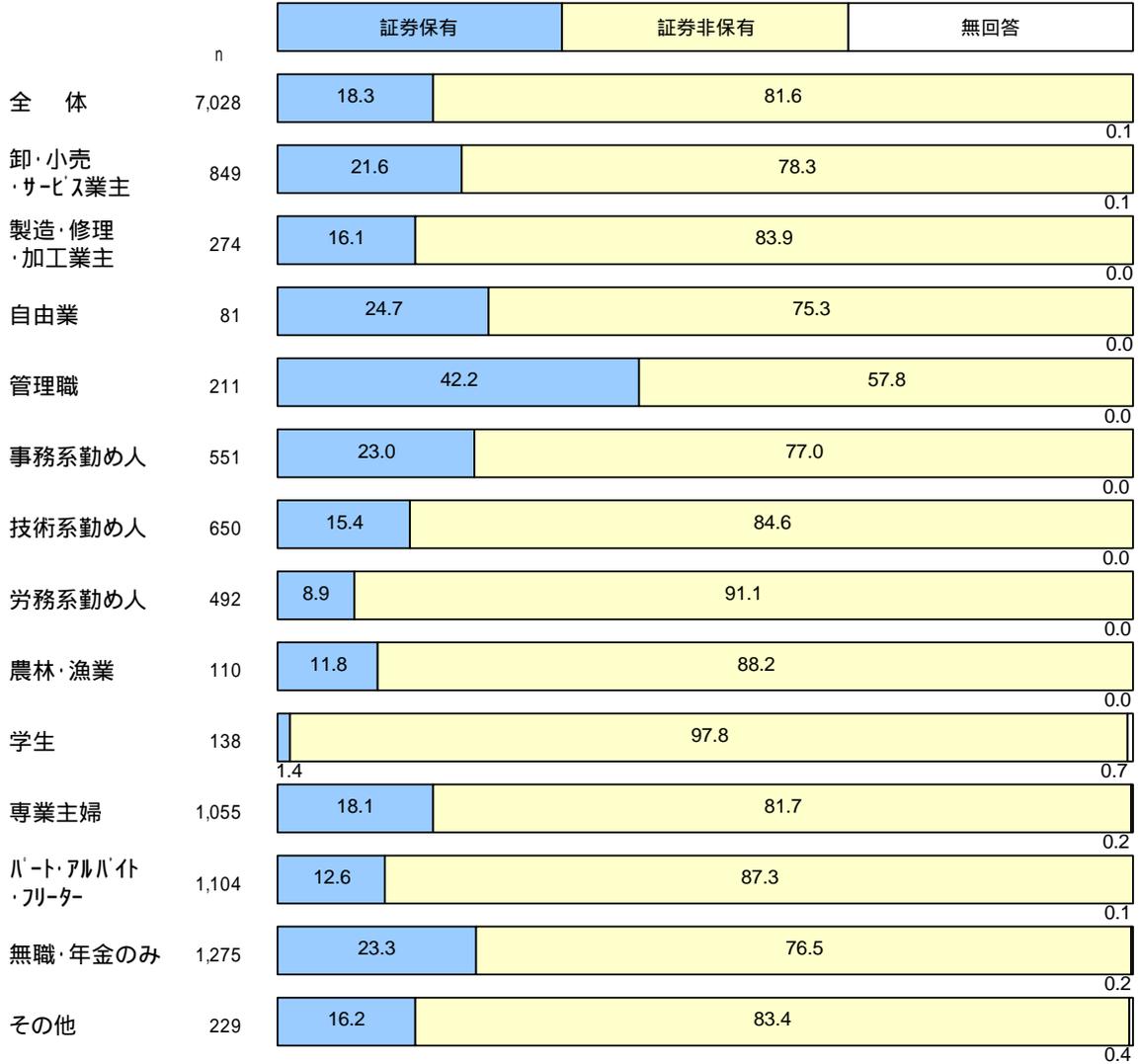


図表 3-2 証券の保有状況（問2）/年代別（F2）



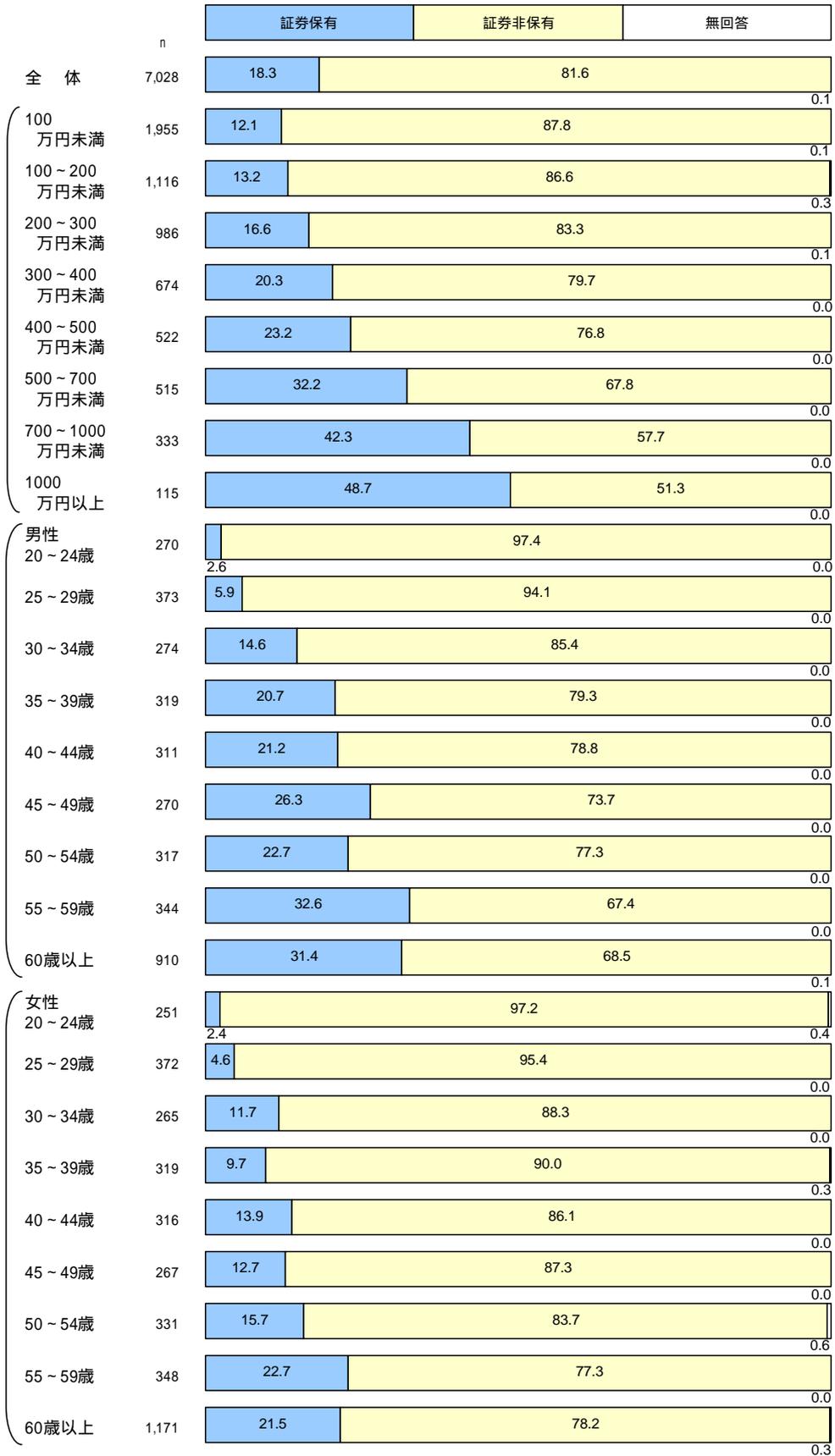
職業別では、管理職の証券保有率（42.2%）が他の職業に比べて高いが目立つ。他の職業としては、「卸・小売・サービス業主」、「自由業」、「事務系勤め人」、「無職・年金のみ」が、いずれも20%以上の保有率となっている。

図表 3-3 証券の保有状況（問2）/職業別（F3）



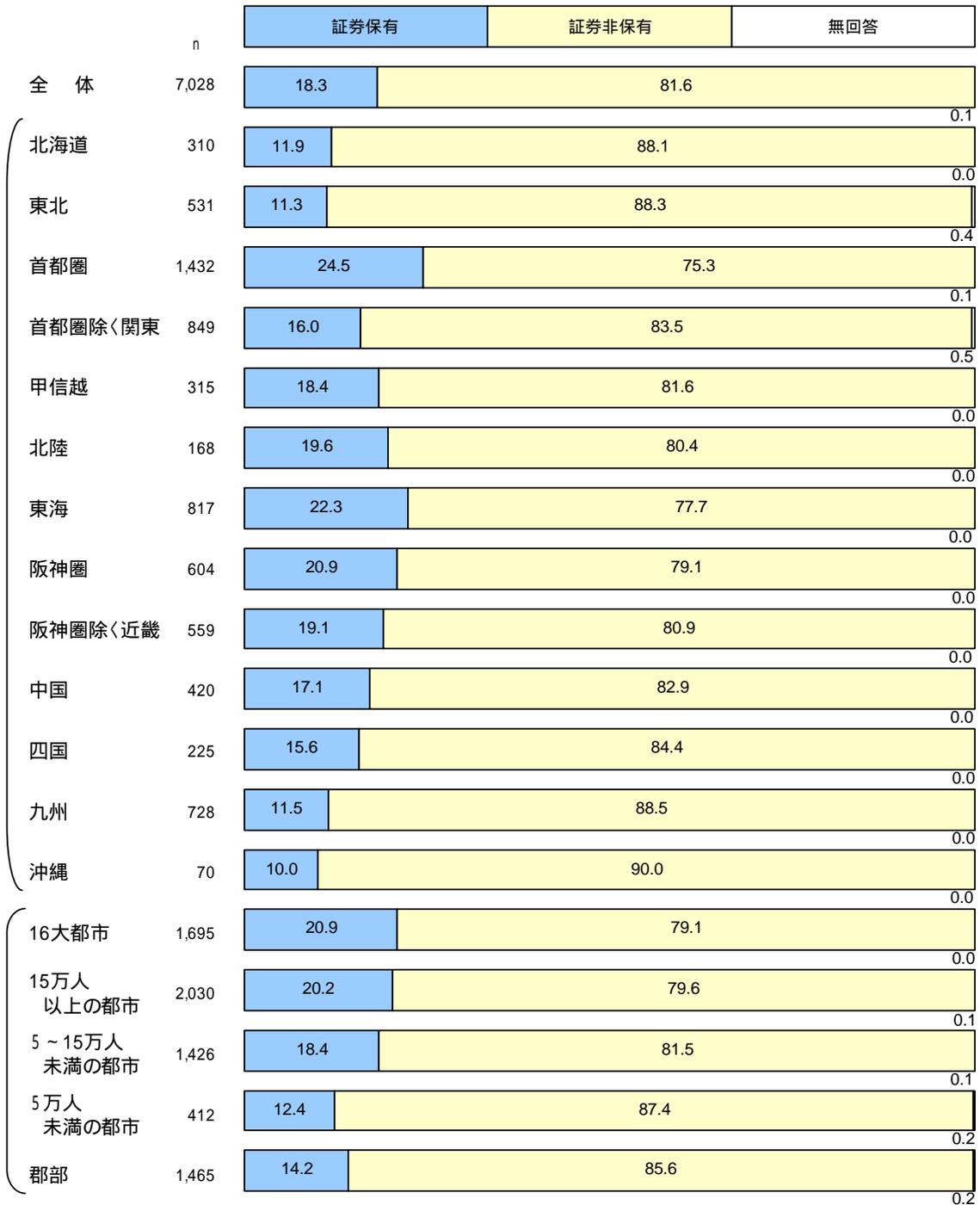
年収別では、年収が多くなるほど保有率も高い。
 性・年代別でも、やはり男女とも55歳～59歳の保有率が最も高い。

図表 3-4 証券の保有状況（問2） / 年収、性・年代別



地域別で保有率が最も高いのは、首都圏(24.5%)である。東海(22.3%)や阪神圏(20.9%)も比較的高い。
 都市規模別では、16大都市、15万人以上の都市、5～15万人未満の都市での保有率が、5万人未満の都市や郡部に比べて高い。

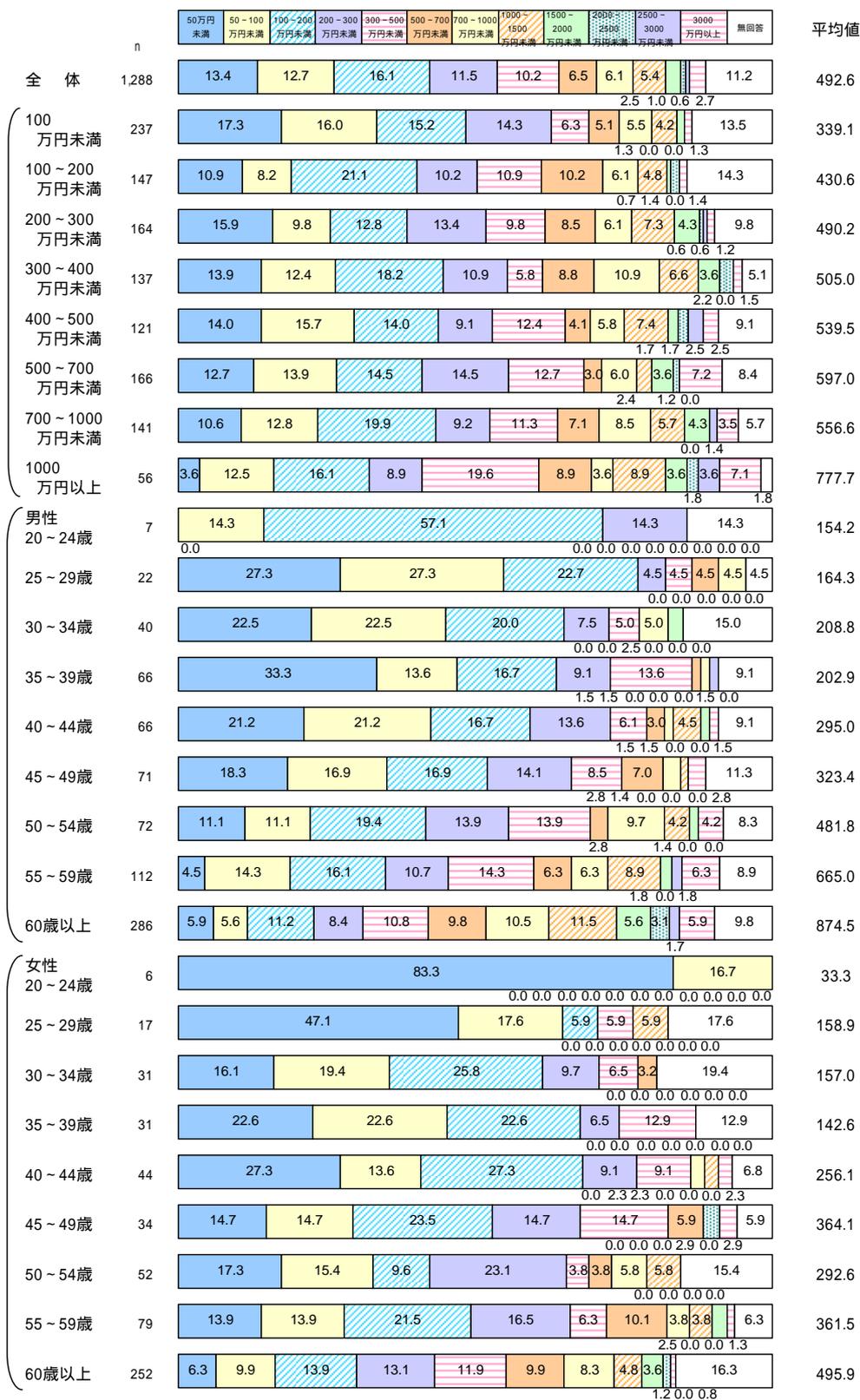
図表 3-5 証券の保有状況(問2) / 地域・都市規模別



(2) 証券の保有額 (問4)

証券保有者の証券保有額をみると、「100～200万円未満」が16.1%と最も高く、「50万円未満」(13.4%)、「50～100万円未満」(12.7%)と続き、200万円未満が4割強を占める。
 性・年代別でみると、サンプル数が十分でない層もあるが、男女とも200万円未満の保有率は年代が上がるにつれて低くなり、逆に200万円以上の保有率が高くなる傾向がみられる。

図表 3-6 証券の保有額 (問4) / 年収、性・年代別



(3) 証券の重複保有状況 (問 16,36,42)

証券(株式・投資信託・公社債)の現在保有者(株式:問16の選択肢1、投資信託:問36の選択肢1、公社債:問42の選択肢1)の重複保有状況をみると、「株式のみ保有」が48.0%と5割弱を占めている。次いで「投資信託のみ保有」が13.6%、「株式と投資信託を保有」が12.7%と続く。以下、「3種類とも保有」が8.0%、「公社債のみ保有」が7.9%、「株式と公社債を保有」が5.0%、「投資信託と公社債を保有」が4.6%となっている。

図表 3-7 証券の重複保有状況 (問 16,36,42) / 年収、性・年代別

